

早稲田大学 基幹/創造/先進理工学部 化学 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	120分(志望学部・学系・学科により、物理・化学・生物から2科目選択)
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	小問集合	例年通りの小問10題である。(3)の結晶格子の出題は慣れない解答者には大変であったかもしれないが、難易度が高い問題ではないであろう。(8)については“異性体”を数えるという点で、構造異性体のみを数えてはいないであろうか。問題をよく読んで欲しいところである。(9),(10)については、問題をよく読めば解答できる問題である。苦戦した問題はほとんどなかったはずである。	標準
〔Ⅱ〕	無機化学 理論化学	無機化学と理論化学の融合問題である。いずれの設問も“極めて難しい”はなく、日頃から問題に慣れていれば、解答しやすかったはずだ。	標準
〔Ⅲ〕	有機化学	(1)本問では化合物Gが酢酸カルシウムの乾留で得られるという箇所から他の構造が決まることがポイントになったはずである。日頃の演習が十分であれば、この箇所の判断は素早くできたはずである。また、問2では水蒸気圧が記されていないため、そのまま計算した。 (2) P_3 , P_4 のいずれかが分子量310ということ、 P_3 には芳香環が、 P_4 には硫黄原子が存在するという点で、いずれかがどのアミノ酸で構成されるかが判明するはずである。問題文が読みにくく感じるが、一行一行をよく読んで判断すべきである。	標準

〔総合コメント〕

出題数と解答時間を総合すると、『一題で悩む時間があれば、解答できる問題を片っ端から解答すべきであろう』というのが本音である。例年通りで大問3題に各設問であることは変わらないが、“昨年並”ではあるが、“昨年よりも易化”というべきであろう。目新しい問題はほとんどなく、“受験の準備ができている受験生”にとっては、“日頃の演習で接してきた問題”が多かったと考えるべきであろう。解答を優先した問題での失点はないと思いたい問題が多かったということである。